

会議録

会議録	
会議名	令和7年度第4回丸亀市社会教育委員の会
開催日時	令和7年11月11日(火) 10時00分~12時00分
開催場所	丸亀市役所2階204会議室
出席者	出席委員 引田 真人・大村 隆史・白川 常俊・三井 喜代子 逸見 美智子・鈴木 裕美・西谷 清美・荻上 健太郎 欠席委員 金澤 泰宏・秋山 いとこ 傍聴人 1名 事務局 田中部長・村尾課長・白石担当長・藤本主事
協議案件	議事 (1) 第5次丸亀市生涯学習推進計画(素案)について
配布資料	【資料1】第5次生涯学習推進計画素案 【追加資料】体系図
事務局	<p>本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>会に先立ちまして、資料の確認をお願いします。資料につきましては、事前にお送りした資料1と、追加資料です。</p> <p>それでは、ただいまから、『令和7年度第4回丸亀市社会教育委員の会』を開会いたします。</p> <p>本日の会議は10名の委員の内、8名の委員にご出席いただいておりますので、「丸亀市社会教育委員の会に関する規則」第6条第1項に基づき、本会が有効に成立しておりますことをお知らせします。</p> <p>本日の会議につきましては、『次第』に沿って進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、会長よりご挨拶をお願いします。</p>
会長	《開会あいさつ》
事務局	それでは、ただいまから議事に入らせていただきます。

	「丸亀市社会教育委員の会に関する規則」第4条第1項により、会長に議長をお願いします。
会長	それでは、私がこれから議事を進めさせていただきます。 本日は議事が1件ございます。 はじめに（1）「第5次丸亀市生涯学習推進計画（素案）について」資料1で説明をお願いします。
事務局	《事務局説明 資料1「第5次生涯学習推進計画素案」》
会長	基本目標の変更案について。何かあれば、是非コメントいただけたらなと思いますが、いかがでしょうか。
A委員	前回は、基本目標の語尾が環境・機会・関係のニュアンスで目標として伝わるか検討したと思います。
会長	修正案では、基本目標1～3の棲み分けができているか気になります。
B委員	修正案のまま、16ページの計画の考え方の説明文のところに環境・機会・関係を補完的に入れてはどうでしょうか。
C委員	目標1～3の違いについては、環境・機会・関係が入る方が伝わると思います。たとえば、環境だと、環境をどうするのか分かりにくいで、「環境の整備」、「関係の構築」等にしてはどうでしょうか。また、施策（5）は、家庭や地域が環境を担い学びの土台・基礎になる部分ではないですか。
会長	基本施策（5）は、地域の連携協働にもかかっていますね。
C委員	具体的な施策⑯は「安定した家庭支援」として基本施策（1）に入れては。「豊かな心の育成」の前の段階に家庭教育が必要だと思います。
会長	行政が介入しづらい家庭教育が基本施策（1）に入るには、施策として難しくなる可能性もあります。また、（5）教育力の「向上」より「連携」としたい。その場合⑯は（1）に入るか迷うところですね。

B 委員	基本的な考え方の整理として、32P（5）⑯「家庭教育支援の充実」の取組について、主な取組の「子育てボランティアの育成支援」は、直接施策として実施する事に重きを置くのか、それとも関係部署との協力・連携に重きを置くのか確認したいのですが。
事務局	「連携」に重きを置く位置づけとしたいと考えています。今丸亀市ではかなり色々な支援の事業はしていますが、それを家庭教育と結びつけて連携するっていうような視点が前の計画までは足りない部分でしたので、計画へ盛り込むことで、支援事業をご存じない人へ届けるという意味合いが強いです。
副会長	体系図は、視覚的に色分けしていますが、すぐ隣のみに対応しているとは限らないと思います。理念・こんな社会をつくりたい→目標・3つ重点を置きました→施策・多様な課が協働して行うために具体施策を考える。この流れで考えた時、環境・機会・関係の言葉は入れたほうが良いのではないかという気はします。
会長	このような体系図は、結構外部の人が2次利用的な使い方をする場合もあるのですが、その時に「環境の整備」等、何をするか分かる言葉を入れると、読み手としてはスムーズに読み取れるかなと。体系図は重要性を示す順番でないことを踏まえれば、現在の配置でも問題ないかなと私は思いました。
A 委員	「環境の整備」ですが、「環境の確保」が、実際に施策が動いた時には、既存の資源を使えるので良いのではないかと思います。整備だと新たに作る必要があるので、確保の方が地域の資源を活用して使う社会教育的なイメージもあって良いのではないかという気がします。
会長	私は「醸成」という言葉も思い浮かびました。整備は新しいものを作ることと、無くすこともありますが、確保だと残すといったニュアンスにも捉えられます。
事務局	環境・機会・関係について、言葉を入れると意味は見えますが、意味合いが限定的になって、目標と施策が繋がりにくくなることがあります。あくまで目標は目指す状態で、それに対してより具体的に基本施策、具体施策が、この緑・黄・赤3色それぞれでとらえるのではなく、全てが有機

	的に連携するので、意味合いが限定的だとロジック的には捉えづらく、外した方が良いのではないかという提案を差し上げました。となると、ご意見にもありました、例えば（3）の「活躍できる環境整備」でも、言葉が「整備で」いいのか、もしくは「確保」の方がいいのか、会長がおっしゃったような「醸成」がいいのかといったような、右側のほうで具体的な言葉の扱い方っていうのは議論された方がいいかなという風には感じています。
会長	確かに、具体的な部分っていうのは、さらに下の基本施策だったり、具体的施策っていうところでカバーするところであって、基本目標のところはむしろ幅を持たせということが事務局の案でしたね。
副会長	今事務局の方から聞いたことを考えると、体系図の基本施策とか具体的施策については、色分けをせずに別の色を使うとか、枝分かれしている線もいらないのかなという気がしています。
A 委員	横に並べず、縦に溶け込ませる方法もありますね。
事務局	枠を持たせると、その枠の中でだけで留まってしまう意味合いがどうしても強くなりすぎて、縦割りのイメージがだんだんこの基本施策や具体的施策にもついてしまうので、多様な施策を連動させるという意味でも、体系図はシームレスに捉えたいと思います。
D 委員	枠があるから横へ進むイメージがついてしまうのでは。線でなく、色をグラデーションにしてはどうでしょうか。
B 委員	例えばこの体系図を円にしてみてはどうでしょうか。基本計画なので一定の構造化は必要だと思うので、円の中心に理念、その周りに目標を3等分のピザのように配置して、その周りに基本的施策 6 つがあり、それが循環・関連するイメージにしては。
会長	目標と施策を必ずしも連動させる必要がなければ、円も面白いと思います。ただ、おそらく現体系は、ロジックモデル等の評価時のことを考えた形となっていますので、円となった場合に、仕事の流れとしてその評価が難しくなる恐れがあるかとは思います。

副会長	体系が変わると、後のページの説明も目標→基本施策→具体的施策という流れになっていて、その書き方にも関わってきて、計画全体を大きく修正する必要があり作業が大変になるのではないかでしょうか。
事務局	では4章以降は、具体的施策のみを並べてみるというのはいかがでしょうか。
会長	そうすると、その具体施策がどこにつながるか、見えなくなりますね。あとは、線ではなくて積み木上にくっつけてしまうとか。理念は「積み上げ」で達成されるということは通じるかなとは思います。
事務局	ロジックモデルを立て、アクティビティを考える実際の事業では、枠を持たせることは大事になります。みんなの意見をうかがっていると、この体系図の矢印や線を外すだけでも結構よく見えるのではないかと思いました。
会長	見え方と運用で相反する部分がありましたが、折衷案として体系図の中で左右のつながりを表す線を外し、また、基本目標は抽象度をあげた文言とし、施策部分で具体性を持たせるということにしたいと思います。続いて20P以降、具体取組と成果指標についてご意見があればお願いします。
B委員	先ほどの議論とも関連しますが、どうしても行政の立場的には定量の評価は避けて通れないと思います。一方で、取組レベルの指標では、理念や目標の達成につながらない可能性もあります。そこで、質問ですが、これまで目標レベルでの指標の設定をした事業が今までにあったのかどうかお聞きしたいです。
事務局	過去計画の進行管理表では、事業レベルでの基準値・目標値の設定に留まっており、理念や目標の達成にはつながってはいませんでした。
会長	各指標により上位目標が達成できるか、ロジカルに説明できるようになる必要があるということですね。また、取組数に対して成果指標が少ない状況を見直す必要もあります。
C委員	21ページの定性指標項目は、アンケート項目で選択するか、自由記載か

	ら拾うかによって数値が変わると思います。誘導的になるが現実的には前者ですか。
事務局	選択では答えが同じになるので、感想から読み取れるような問の立て方を工夫し、記述式で意見を集めたいと考えています。
会長	調査でよくするのは、選択制や、その度合いを書いてもらうとかですね。アンケート項目をダイレクトに計画の指標へ使用することが少ないのは、担当者の実作業が大変だからだと思います。
D 委員	4次計画までは成果指標が上で、その下に取組がありましたが、5次計画では取組の下に指標が来ていて、順番的に改善されたのが良いと思いました。また、アンケート結果を指標にすると評価につながるのでとても良いと思いました。
事務局	まなび文化課は、事業評価としてアンケートを丁寧に行ってています。例えば、事業目的が参加者に伝わったかを測るため、参加目的と満足度を聞いたり、仲間づくりのワークショップでは次回誰と参加したいか聞いたりします。特に、重点項目では変化が読み取れる問の立て方を工夫して行いたいと思います。
会長	すごく手間をかけて丁寧にやるということはよく伝わってきました。そうなると、効率的な業務の進め方がもしかしたら課題として上がってくるかもしれないですね。
C 委員	グーグルフォームなどシステムを利用する等の工夫が必要ですね。
E 委員	私もアンケートを実施するときは、事業後に回答できるよう二次元コードをつけたりしますが、時間があいてしまうと、答える意欲が下がるため、その場で書いてもらうことも大事なことだと思います。事業を組立て時から、見せたいものと求められているものを丁寧に検討し、問 い を考えるという考え方方が参考になりました。
会長	ニーズ把握だけではなく、成果を図ることが目的のアンケートは実は少ないので、その両面ができるのは理想的だと思いました。

A 委員	他課はまなび文化課と違う事業評価をもっている可能性もありますので、協働する他課のプランニングでの成果指標と連携させる必要があると思います。
事務局	他課計画にもアウトカムという言葉が入っているが、行政評価の結果として出すものはアウトプットになっているという問題は、議論されています。事業組立時にアウトカムまで反映されているか、特に重点事業については、庁内での連携が必要となります。
事務局	現状として、アウトプットベースの指標を採用することによって、定量的なわかりやすさが求められていることは事実です。ロジック的な思考に時間がかけられていないため、本来の成果指標が提示できていない場合が多いです。まなび文化課が先駆者となることで、他課の変化も期待したいところです。
C 委員	定性指標はまなび文化課の取組みのみで、他課の取組みは定量指標となると、他課への介入は難しいのですか。例えば、32 ページの居場所の箇所数はまなび文化課が把握していない数値ですよね。そうなると、今言ったようなアンケートを取ることは難しい。居場所の箇所数よりも、該当している子どもの何割が居場所を確保できているかが大切だと思います。でもそれはまなび文化課の所管じゃないから、この場で言ってもだめなんだと思いました。
会長	そうですね。ここで意見を言ってもすぐには反映できないので、他部署も一緒に考えたほうが良いのではと感じます。確かに居場所の箇所数は本質的ではないと思います。他部署の指標であっても同水準を求めるんですね。
C 委員	そもそもこの計画は、まなび文化課だけでなく市全体としての計画として捉えていいですか。
会長	関連部署の担当者も絡めた協議ができるのが理想ですが、できていないので、今回出た意見を、まなび文化課から他部署の担当に発信して協議ができれば、もっとアップグレードできると思います。
事務局	今後のスケジュールとして、今日頂いたご意見をもとに、修正したもの

	を各課に周知をさせて頂いて、指標で他の部署が取り組んでいる指標で活用できると思われる指標を当てはめたりですとか、先ほど頂いたこれが足りてないって言う意見もその時に伝えていけると思いますので、この計画が、他の部署も変わっていくきっかけになればいいなと思います。ですから、他の部署へのコメントがあればこの場でおっしゃっていただければ、お伝えをさせて頂きます。
会長	関連他課が多いのが、生涯学習計画の面白いところですね。
C 委員	でしたら、学校教育課に、教室に入れない子どもに向けたオンライン授業等、代替学習の保証がどうなっているか状況を聞いてもらうようリクエストしても良いですか。
事務局	分かりました。
B 委員	他課の取組の成果指標として既に掲げているものがあれば、それを把握したうえで成果指標を設定しないと、もうすでにやっているのに、新たなこともやれみたいに捉えられてもよくな�니다。すでにあるものと足りていないものを整理したうえで示した方が、他課にとっても建設的になるのではないかと思います。この計画の中の取組は、他課ですでにやっているものもあると思うのですが、どうですか。
事務局	現素案では、他課計画から取組項目を抽出した状態なので、各課へヒアリングを行いたいと思います。本計画は、多様な社会課題にアプローチする方へ舵をきっています。重層支援、共生社会といった、重点的に市の施策として上がっているところについてはやはり、フックがたくさんあるように思います。その中でも、特に生涯学習や文化芸術はフックとなる部分が多くなると考えますので、各担当者と丁寧に話をして、その結果を反映させていただきたいと思います。
会長	今後の予定ですが、今日は4回目の会議で、一度修正を挟んで12月上旬が5回目の予定ですが、スケジュール的に5回目が書面開催になる可能性もありますので、この場での発言が最後になることも考えられます。
副会長	本計画は、市総合計画並みの大きなものになると感じています。取り組みは「関連部署」でなく主体的に関わるという意味で他課も「担当」とと

	らえてほしいので、「担当部署」としてもらいたいと思います。
事務局	分かりました。修正します。
B 委員	成果指標の話題からは離れますぐ、19 ページの体系図のところで、(4) ⑪で、子どもは「地域社会に関わる機会の提供」とありますが、⑫の大人になると「地域課題解決につながる学習の充実」となっています。大人も地域主体の一員であるという部分が抜けているので、もう少し強調しても良いかなと思いました。ただ、体系の変更の議論になってしまふと大変だと思うので、皆さんはどう思われますか。
会長	それぞれの具体的施策の取組を見ると⑪は子ども中心で、⑫は子どもの要素を除いたような項目ですね。基本目標との絡みで言うと、この地域課題というものが接続のキーポイントです。他の項目と比べると、行政の課題や使命のような部分に絡む項目ですね。
B 委員	もう一つは、地域への愛着のような要素をどう扱うかという点が一点と、⑧の内容が薄いという点が一点。大人だけでなく、子どもも含めて地域の色んな人と出会い対話して地域を知るといった要素を、⑧に入れても良いかと思いました。
会長	⑧は今回の計画から新しく加わっているものです。他の色々な取組を、多様な主体との対話を通じた事業に結び付けていくのも必要な観点かなと思います。
事務局	行政と市民、市民団体が協働していく上で、最も大切なのは対話だと私もとらえています。今回あえてこの対話というものをベースに取り組んでいくという意思表示をここでしていますが、対話となると、どの項目にも実は当てはまる行動のように思いますので、今のところは「全ての人に開かれた学びの場作り」という項目が割と事業として見えやすいという捉え方で、⑧に入れています。
会長	⑧は例えば⑪、⑫に入ってきても違和感がないかとも思います。何のために何の事業をするのか、割とプレーンな状態でここに置かれている取組だと思います。市民が民主的に学びを通じて社会に貢献する学習プログラムとして見出していくという観点なので、結構気に入っている項目

	ではあります。ただ、やっぱり内容が薄いので、具体的なものを想定すると、例えば市民から持ち込まれた企画をサポートする、協働事業でボードゲーム制作のような事業がありましたね。
事務局	実は今年度から、生涯学習の部門でも市民が提案したものを具体化して、講座にする取り組みを進めており、その中では割といわゆる趣味的な講座ではなく、地域の課題とも結びついたものがあります。具体的に言いますと、安心できる居場所作りのための料理教室がしたいと提案されて、先日実際に講座を実施しました。対話の中から自分たちで作り上げているので、「すべての人に開かれた学びの場づくり」にも近いですし、会長がおっしゃったように「協働の推進」にも結び付くような気もします。
会長	ありがとうございます。その他、皆さんのお仕事に関連する事でも結構ですので、ご意見あればお願ひします。
C 委員	コミュニティスクールとはどんなものですか。
事務局	学校運営協議会というものを設置している学校をコミュニティスクールと呼んでいます。
会長	⑬「地域学校協働活動とコミュニティスクールの推進」ですが、主な取組の 3 つが近い内容なので、どう違うのかもう少し見やすくしてもいいかもしれません。「推進」よりも「増やす」といったような、踏み込んだ表現が入っても良いかなと思います。
C 委員	「子どもの居場所」もこの⑬に入るのですか。
事務局	子どもの居場所は 23 ページ④に追加しています。
C 委員	民間のフリースペースで、子どもたちの横の連携や、各々の連携をしたいという声を聞くので、そういう取組はどこに言えばいいのかなと思うのですが。フリースペースって実は結構数があるんですが、本当は行政とか学校からそういう場所を紹介してもらいたかったりもするんです。

F 委員	学校でも「こういうフリースペースがありますよ」といったような紹介をすることもあります。
C 委員	それは心ある学校ですね。基本的には言わないことが多いかなと思います。
会長	市内のフリースクールの情報をまとめて発信するような役割っていうのは、教育委員会にあつたりするんですか？
C 委員	<p>私が 2 年前くらいに「ユニパスバンク」というのを自分で作って県内に配りました。ホームページでも掲載しています。行政はそういった民間の動きをサポートする役割があるのかなと思います。例えばこういった情報バンクを作るときの経費の援助だったり、情報を共有する枠組みだったり。フリースクールは手弁当の部分があつて継続が難しいので、行政のサポートや横のつながり、学校とのつながりができればもっとうまくいくような気がします。すでに学習支援の項目は入っていますが、民間も含めた線や面の捉え方をしたいですね。行政計画の中に表記するのであれば、補助金事業のようなものがもしかしたら入ってくるのかなと思います。</p> <p>それから、全部の取組が同じように大事という計画でなく、年度毎に力を入れる看板メニューのようなものが入るとカラーが出るかなと思います。</p>
事務局	例年、年度当初に、部の重点施策を検討し、1 年の予算ベースでこの事業にはしっかりとお金を付けます、っていうことは実はやっています。一方で、文化芸術や生涯学習といったものは、1 年では効果が出にくい取組みもありますので、この 4 年間の計画の事業のこの部分が重点施策ですというのを掲げて、そこに細かい実績の数字を入れていくと、割とアクセルワークはできるかなと思います。
B 委員	<p>改めて具体的な施策を見てみると、各担当課のメニューが単純に並んだ形だけで終わってしまうのはもったいないと思いました。本計画が網羅的に計画されているからこそ、各課でカバーできない部分がこの計画でつなげられるんだということを強調したいです。</p> <p>通常の施策では、世代や状況といった対象を明確にして取り組むものですが、それが生涯学習ではすべての人が対象になるというところが特徴</p>

	であり、難しさになるので、そとあえてちゃんと向き合いたいなと思いました。
会長	では時間が参りましたので、協議はこれにて終了といたします。最後に皆様、事務局の方へ質問事項はございますか？
	<質問なし>
	はい、ありがとうございます。では、進行を事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。
事務局	それでは、以上で令和7年度第4回丸亀市社会教育委員の会を終了いたします。皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございます。